

魅力ある授業のために（単元化例） 文学国語 読むこと

1 単元の目標

- (1) 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。〔知識及び技能〕 (1)エ
- (2) 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。〔思考力、判断力、表現力〕 B(1)オ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

2 指導と評価の計画

科目名	文学国語	学年類型	2年	単位数	4単位	話すこと 聞くこと	
単元名	歌人の人生に思いを馳せよう （「小さなヴァイオリンが欲しくて」）					書くこと	
						読むこと	○
単元の評価規準							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解している。		「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。		作者の人生について調べた上で短歌を読み、鑑賞文を書く活動を通して、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えたり、作品の成立した背景を探ったりしながら、作品の解釈に粘り強く取り組み、自らの学習を調整している。			
主たる言語活動							
作者の人生について調べて短歌を読んで、鑑賞文を書く活動。							
時間	授業のねらい・主たる学習活動	重点項目			評価方法		
		知	思	態			
1	歌人永井陽子に興味をもち、短歌を鑑賞する。	○	○		・行動の観察 (活動の様子)		
	①単元の目標を確認し、学習の見通しをもつ。 ②歌集という作品の在り方について知る。永井陽子について、年表を参照しながら確認する。 ③鑑賞文の見本を参考に、鑑賞文を書く短歌を選ぶ。						
2	作者の人生にも思いを寄せながら、短歌の鑑賞文を作成する。		◎	◎	・記述の分析 (鑑賞文)		
	④自分が選んだ短歌について、作者の生き方、ものの見方、感じ方なども考えて、400字程度で鑑賞文を書く。 ⑤グループで鑑賞文を回し、生徒相互でコメントを記入する。 ⑥振り返りと感想を記入する。						
定期考査		◎					

※重点項目について、「◎」は総括の資料とするもの、「○」は、総括の資料とせず、不満足な場合は何らかの指導を行う。

3 思考・判断・表現のルーブリック

観点	評価A	評価B	評価C
<p>作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。</p>	<p>作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作者の人生と作品が成立した背景の関わりを捉えたり、他の作品との関係を踏まえたりして、作品の解釈を深めている。</p>	<p>作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。</p>	<p>作品を解釈している。</p>